

議 事 録

件 名	第 2 4 回外傷等動向調査委員会
日 時	令和 6 年 5 月 7 日 (火) 1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 8
場 所	久留米市役所 3 階 3 0 3 会議室
出席者	委 員 山下 典雄 委員長 久留米大学 医学部教授 三宮 貴彦 副委員長 一般社団法人 久留米医師会 理事 古賀 仁士 委員 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 副院長兼救急救命センター長 中尾 直人 委員 損害保険ジャパン株式会社 担当部長兼久留米保険金サービス課長 村田 康裕 委員 久留米広域消防本部 救急防災課長 藤田 利枝 委員 久留米市保健所長 秦 美樹 委員 久留米市協働推進部長
	事務局 柳課長、豊福主幹、新村補佐、古賀（協働推進部安全安心推進課） 堤次長、田中補佐、柿原（保健所総務医薬課）
	対策委員会事務局 柴尾次長（協働推進部）、古賀課長、植松補佐（高齢者の安全）、野口主幹（児童虐待防止）、佐野課長（防災）、中原主査（自殺予防）、山下（学校安全）、平岡委員長、水落次長、酒井所長（DV防止）
欠 席 者	なし
次 第	1. これまでの総括と本審査の振り返りについて 2. 地域診断の実施について 3. 令和 6 年度 認知度向上・取組の裾野拡大について 4. その他
＜ 議 事 概 要 ＞	
委員①	開会 ・事務局から開会宣言 ・委員自己紹介（人事異動後の紹介） ・傍聴確認 （傍聴希望者なし） ≪ 1. これまでの総括と本審査の振り返りについて ≫ （質疑応答） なし ≪ 2. 地域診断の実施について ≫ 【防災について】 ・防災について追加の報告をする。 ・久留米市では水害が恒常化・甚大化している。参考までに、令和 5 年 7 月の水害では、福岡県内の損保各社で受け付けた自動車保険の車両保険の請求件数が 3,400 件、支払い約 39 億円。火災保険の受付が 7,400 件で約 105 億円の支払い見込みであった。

議 事 録

委員①	・ また、水害などの被災者をターゲットにした悪徳業者による二次被害が発生している。被災された家を悪徳業者が回り、保険金請求のお手伝いをさせてくださいと言って被災者を騙し、保険金を詐取する。
委員長	・ 素人にとって誰が悪徳業者か分からない。騙されないための注意点はあるか。
委員①	・ 難しくないので、自分で保険金を請求すること。 - また、日本国内の保険会社は大抵代理店制度を取っているため、保険を契約した時の代理店に連絡すること。
委員②	高齢者の単身世帯が増えていることも影響しているのではないかと思う。 【人口動態統計、緊急搬送について】
委員②	・ 診療をしていて感じるが、10～20 年前と比べると後期高齢者の割合が大幅に増加した印象がある。そのため、けがや病気は自然と増える。 ・ 本来救急搬送に値しないような方の搬送は増加しているのだろうか。
委員③	・ 増えていると思う。 ・ 令和 2 年には、新型コロナウイルス感染症の影響により救急搬送件数は減少したが、令和 5 年にかけて増加に転じている。 ・ 一時期は軽症患者よりも中等症患者の割合が高くなっていたが、現在は軽症患者の割合が高くなっているので、安易に救急車を呼ぶケースが増えている傾向にある。
委員②	・ 働き方改革による人手不足の中、どの病院も苦勞して救急対応を行っている。他市であったような、入院しなかった場合に有料化するのも一つの考え方かと思う。
委員長	・ 久留米市だけではいけないので、県や国等が検討していく形になるかなと思う。 ・ 救急搬送に関して、働き方改革による医療を提供する側の制限を受ける可能性がある。搬送困難件数の推移は見るべきポイントだと思うが、実際の件数はどうか。
委員③	・ 手元に資料がないが、搬送困難は無いわけではない。 ・ 救急搬送数自体が増えており、消防としても大きな課題として認識している。適正利用を以前より呼び掛けているが、昨年は過去最高件数を更新している。

議 事 録

委員④	・搬送困難は、救急搬送の数が多いから発生しているという実感はない。どちらかという、精神科や新型コロナウイルス、手術といった点が影響しているのではないか。 ・高齢者が増えているので、搬送件数が増加するのはしかたがないのかなと思う。高齢者が重症かそうでないのか判断できず、とりあえず救急車を呼んでいたり、一人で病院に行けないために呼ぶケースなど。
委員②	・高齢者の一人暮らしで、誰も連れて行ってくれないとなると、救急車を呼ばざるを得ないケースもあるかと思う。
委員長	・高齢化という社会の変化も加味して考える必要があるので、難しい問題だ。
事務局	・高齢者の転倒予防など啓発を行っているが、医療等に携われる現場の皆様からアドバイスをいただけないか？
委員②	・歩けることは基本であり、歩けなくなって体力減少などもあるため、日頃の運動などが必要だ。外に出ることが嫌いな高齢者を、どう外に出していくかという問題と思う。久留米市もアプリなどを行っていないかったか。
事務局	・健康のびのびポイントアプリや、高齢者の転倒予防やフレイル予防、ロコモティブシンドローム予防の教室等を行っている。なるべく健康な時間を増やすことを目標に取り組んでいる。
委員②	・高齢化が進行している中では、フレイル状態の高齢者の数が増えることは止めようがないが、できるだけ緩やかに増えるようにしていくことが望ましい。
委員④	・睡眠導入剤も関係があるのではないか。
委員長	・確証はないが、受診時の聞き取りで、影響があるかもしれないというケースはある。
事務局	・調剤薬局に転倒予防のチラシを置くなど、服薬という観点での情報提供も検討したい。
委員③	・救急件数の伸びもそうだが、建物救助（建物の中で倒れて連絡がつかない等）の件数が全国的に伸びている。単身世帯の高齢者が増えていることもあり、鍵を壊して中に入ると亡くなっているといったケースが増えてきている。 ・高齢者の安全対策委員会の見守りもそうだが、離れて住む家族が毎日１回電話をして安否確認するよう促すなど対策が必要だ。

議 事 録

委員長	・ 昔は地域コミュニティで気付きあっていたところが、プライバシーの配慮などもあり、つながりが希薄化している側面も影響しているのではないか。
事務局	・ 市が取り組んでいる民間企業等と協力した見守りネットワークという仕組みや、委員長が指摘された地域コミュニティの繋がりという点などから、どのようなことができるのか情報収集していきたい。
対策委員会	(高齢者の安全対策委員会) ・ 市では緊急通報システムの貸出も行っており、自宅に設置したセンサー付きの機器に反応が無い場合には業者に連絡が行くような仕組みもある。低所得の方には利用料を軽減している。
対策委員会	(DV防止対策委員会) ・ 私は民生委員として高齢者の支援に携わっている。民生委員は、「命のバトン」という取組を行っており、独居高齢者や高齢世帯に緊急連絡先やかかりつけ医、服用している薬等を書き込んだものを冷蔵庫に入れておくことで、救急隊に活用してもらえるようにしているが、現場では活用されているか？
委員③	・ 救急隊は全職員が知っており、活用している。
委員①	【交通事故について】 ・ 久留米の交通事故件数が減少傾向というデータはあるが、保険の現場では実感が無い。おそらく警察からの事故証明がなくとも自賠責保険がつかえるようなシステムがあり、軽微な事故であれば届出しないというケースが多くなってきたからではないか。大型ショッピングセンターの駐車場など、公道ではないところの事故では届出が不要なものもあるかと思う。 ・ 高齢者の事故を減らすため高齢者の免許返納に取り組んでいるが、やむにやまねず返納できない高齢者はいる。壮大なテーマではあるが、高齢者が住みやすいまちを作っていくという点から取り組まないと難しい。
委員②	・ 高齢者だからすぐ免許返納というのは早急と思う。現在の高齢者が運転免許を更新する際の基準を厳しくするのも一つではないか。また、移動手段のない高齢者へ地域コミュニティバス等気軽に利用できる交通手段がないと、免許返納は難しいと感じる。

議 事 録

委員①	・ 事故を起こした高齢者は、繰り返し事故を起こすことが多いので、仕組みを整備することで事故予防の効果があがるのではないかと。
委員長	・ 自転車事故は 10 代の事故が多いと資料にあるが、高齢者はどのような事故が多いのか。
事務局	・ 手元に資料はないが、自動車事故が多い。
委員②	・ 自転車事故は若い世代が多いが、危険な乗り方をしている若い世代が多いと感じる。
対策委員会	(交通安全対策委員会) ・ 交通安全対策委員会の重点項目として対策に取り組んでおり、交通安全教室は各学校で実施しているが、若い方はルールを知っているが実践してもらえないことが課題と認識している。
委員②	・ 自転車は車両であるという意識を持ってもらうためにも、罰則の強化は一つの方法と考える。市だけの取り組みでは難しいと思う。
委員③	・ 自転車の死亡事故も増えており、ヘルメット着用は努力義務だが、重症化や死亡を防ぐためにも着用は必須と考える。交通安全対策委員会の指標の中にも、ヘルメットに関連した項目を入れてみてはどうか。
委員長	【犯罪について】 ・ 自転車窃盗についてはいかがか？
対策委員会	(防犯対策委員会) ・ 自転車窃盗は盗む方も盗まれる方も 10 代という特徴がある
委員②	・ 窃盗ではなく借りているという意識なのだと思う。犯罪であることの意識を持たせることが必要と思う。
委員②	【子供の安全について】 ・ 児童虐待について件数が増えているが、発見される数が増えているということなのか、虐待自体が増えているのかどのように感じているか？

対策委員会	(児童虐待防止対策委員会) ・ 児童虐待が取り上げられて社会的な関心が高まり、相談ダイヤルの 189 も認知されたことで相談件数が増えていると感じている。将来的には虐待件数が減ることで相談件数も減るように努めている。
委員長	・ 実母による虐待件数が増えているようなデータがあるが、どうみたらいいのか。
対策委員会	(児童虐待防止対策委員会) ・ 割合でみると、以前から実母による虐待は多い。母親が育児を担うという社会的な風潮や、父親は仕事に行き母親が孤立しているという状況があり、新生児訪問時の主任児童員の同行など母親の孤立を防ぐ取り組みを進めている。
委員長	・ けがに関する内容で意見はないか？
委員③	・ 久留米市や久留米大学病院、消防の協力で小学校で救命講習を行っている。命の大切さを学ぶことはいじめの防止などにも繋がってくるので、災害から身を守る安全教育の実施の取り組みにおける指標として取り入れてみてはどうかとを感じる。
委員②	【高齢者の安全について】 ・ 介護される側を虐待しているのは、基本的にはほぼ家族ではないかと思う。介護をする側の負担によるストレスで行ってしまうと考える。介護をする側の負担を減らすような更なる取組も必要ではないかと考える。
対策委員会	【DVについて】 (DV防止対策委員会) ・ 児童虐待と同じく、認知度が高まることでDVの相談件数が増える側面がある。対策しているのに件数が増えるように見えてしまうが、気付かれていなかった部分の掘り起こしがされたためと考えている。 ・ 表に出てこないDV被害、例えば障害がある方がいる家庭で起こっているDVでは、加害者がいつも傍にいて被害を訴えることができない被害が潜在している。定性調査を組み合わせることで、顕在化できないかを考えている。
事務局	・ 今後の地域診断では、今あるデータに加えて新たな調査結果等を示して意見をいただきたい。

委員②	【自殺について】 ・自殺予防対策委員会ではどのように分析しているのか。
対策委員会	(自殺予防対策委員会) ・久留米市では中高年男性の自殺が多いという特徴があるので、そういった方を対象とした講演会や、手に取ってもらいやすい場所に啓発物を置いている。 ・自殺の原因動機として、最も多いのは健康問題。次に多いのは、これまでは経済・生活問題だったが、令和5年は家庭問題に変わっている。また、令和4年からは自殺の原因動機の調査項目数も増えているので、これまで以上に原因動機を注視して対策を取っていききたい。
委員長	・自殺も児童虐待にしても、ストレスに対し地域全体でどう解消していくか、減らしていけるのかという観点が必要なのかと思う。
事務局	・本人を含めて周りの方の気付きによって、ストレスを感じている本人がどれだけ相談することができるかが大事だと考える。自殺のリスクを自覚し、自ら相談に来るケースも少しずつ増えていると聞いているので、虐待と同様に相談の重要性は浸透しているのではないかと感じている。
委員長	第一歩は相談することなので、いかに相談しやすい環境を作るかが大事。
委員長	【災害について】 ・昨年の災害では、避難を拒否する高齢者がいたと消防から聞いている。消防は見捨てることはできないので、大変だったとのこと。避難となったときに、私はいいいではなく、みんなのために避難しようという働きかけも重要なのではないと思う。
委員②	・市民の方はハザードマップを確認しているのだろうか。
対策委員会	(防災対策委員会) ・色んな手段で周知している。昨年の災害においても、被災者の方からハザードマップを見ていたという趣旨の話を聞いている。
《3. 令和6年度 認知度向上・取組の裾野拡大について》 (質疑応答) なし	
《4. その他》 (質疑応答) なし	